

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム和の家 なごみは &lt; 自然や地域とのかかわりの中でその人らしく、尊厳のある生活を &gt; を理念として掲げております。</p>	<p>お一人お一人の生活背景を本人と家族からうかがい、地域における家庭の暮らしの延長の支援に努めています。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>廊下に掲示しており、常に目に止まるようにしています。毎日のミーティングや毎月の担当者会議と職員会議において実践に向けて管理者と職員全員で話し合いを持っています。</p>	<p>法人全体において併設事業所職員も共に、地域密着型サービスとしての理念を共有し、有機的連携の基にサービスの向上に努めています。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>法人は町内会に加入しており、町の行事参加、また家族と共に地域の交流の機会が持っています。また民生委員、各町内の老人クラブの会長さんからも理解を得ています。</p>	<p>法人の併設の在宅介護支援センターにおいて家族介護者教室、認知症予防教室の開催や町の”生き生き祭り”の行事に作品出展し、家族や地域の方々に理解されています。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>施設周辺は田園、住宅地であり地域の方々の散歩の際、入居者及び職員は挨拶や気軽に遊びに来れるような働きかけと行事等の招待、学生のボランティア活動等を通し日常的な付き合いが出来るように努めています。町内会を通じ、敬老会にも案内をいただいています。</p>	<p>広報誌(写真等の掲載は本人や家族の承諾書を頂き掲載)を作成し、町の行事などにおいて配布を行い認知症介護についても相談に応じています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価についての外部研修や内部研修を行うとともに、自己と互いの評価を続けケアの質の向上につなげる努力をしています。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>これまでの事例で、社会福祉協議会や福祉事務所、町の福祉課の担当者と連携し成年後見制度について相談したケースが有りました。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>本人と家族に入居契約書・重用事項説明書等文書で充分説明し、理解を得た上で同意を得ています。また解約時も、本人家族と施設側は話し合い納得をされた上で解約となっています。</p>	<p>本人、家族の希望を伺ったり質問を確認しながら、入居の契約書類に署名捺印いただいています。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、介護相談員の訪問を受け入れ、入居者は相談の機会があります。行事の際は、家族をお招きし、アンケートを頂戴し参考にさせていただいています。又、施設内に於いての苦情処理対応は、重要事項説明書の中に示され、内容は、施設内に掲示し苦情の意見には即対応し、運営の反映に努めています。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時は入居者の生活の様子、金銭管理の状況説明(小遣い記入用紙にサイン)をしています。また変わったことが有った場合は、すぐに家族に連絡・相談・報告をしています。</p>	<p>「なごみ便り」を毎月発行し、おひとりおひとり向けのコーナーを設け家族に便りを通してメッセージを送っています。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族などからの意見があった場合、管理者と職員と話し合いの場を持ち運営に反映させています。運営推進会議への家族参加、また苦情処理に第三者委員を設け対応しています。</p>	<p>本人・家族と交流を通し、本人の願いや家族の思いを受け止め謙虚な姿勢で常時対応に努めています。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時聞く体制。朝夕のミーティング参加、職員会議での提案、発言の機会があり反映させています。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の体調不良や、受診対応時家族と相談し、必要時職員確保、勤務調整しています。</p>	<p>法人は他に他事業所を併設し、緊急時や状況により職員の協力体制が随時出ています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症の入居者に対し、馴染んだ職員の移動は必要最小限に抑え、大幅な移動は控え入居者の不安やダメージを防止しています。</p>		<p>併設の職員は夜勤等で関わっており、法人全体で馴染みの職員と体制が出来ています。</p>
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年、研修計画を立て外部研修受講をしています。研修報告は、事業所内パソコンによる職員間メール閲覧を行うと共に内部研修を行っています。資格試験を奨励し、資格取得によって育成を働きかけています。</p>		<p>毎月、職員会議において内部研を実施し、ロールプレイや演習も行っています。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議の参加により同業者と意見交換や勉強会などを通しサービスの質の向上に取り組んでいます。全国認知症グループホーム協会及び青森県認知症グループホーム協会に加入し東北ブロック大会等にも参加し交流に努めています。</p>		<p>ケアマネ現任研修の機会の参加や包括ケア会議、懇親会など他事業者と交流を継続しながら地域ネットワーク作りを深めています。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間は気兼ねなく話せる雰囲気作りをしており、職員同士の会話から意見交換したり話し合いの場を設けたりしています。</p>		<p>全職員の持つメールアドレス利用によるパソコンの職員間メールにて、プライバシーを保った意見の交換ができています。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>カンファレンス、担当者会議、職員会議等の機会にてケアの取り組み、計画、実施、結果の評価を職員間でプラス面、マイナス面を検討し各自が向上心を持って働けるよう努めています。</p>		<p>職員の資格・能力や実績を把握し、実力を発揮できるように意見交換しながら併設の事業とローテーションを図り、向上を図っています。働きながら学ぶ意欲は支援されています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>直接来所時、面談室にてプライバシーに配慮し担当者は相談内容を受けとめています。</p>	<p>面談室にて、話しやすい場所の提供と話しやすい言葉の誘導、共感しながら親身になって傾聴する姿勢で対応しています。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護者の事情(介護者の入院や体調不良)や本人との会話によって聞き取り、身体状況を見極め、ニーズに合ったサービス利用の対応に努めています</p>	<p>接遇、マナーを内部研修にて実施しており初回の相談の際は本人、家族の不安や、希望を伺っています</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族から生活歴、背景、性格など情報収集し気の合う入居者同士交流ができる環境作りにより馴染める様努めています。</p>	<p>一般型通所介護事業所と共に認知症対応型通所介護事業を併設し、通所で馴染み入居されることも可能です。家族と相談し、入居時数日、居室で家族も泊まっていたいただき安心して馴染んだケースも有りました。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として、あらゆる生活面で職員が知らない昔の習慣や風習など教えてもらい、入居者中心に支援しています。毎日の献立のメニューや調理方法、畑の野菜作り、掃除、洗濯の仕方など教えていただき、できない部分は補いながら、収穫時期は一緒に喜びを共にしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族や身内の方との面会時、生活面、健康面の情報交換し活動の成果、例えば臨床美術の制作、得意分野の様子など話題提供し、時には家族と本人と一緒に食事、お茶をとりながら楽しい一時を過ごしていただいています。		生活のあらゆる面で本人が行ったこと、作品や写真を通し家族と共感しています。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解し、双方に合わせた対応を面会時など、一緒にくつろげる環境に配慮し、より良い関係の支援に努めています。		入居により、本人・家族へ「ゆとりと安らぎの時」を提供し、より良い関係の絆をつなぐ支援を続けていきます。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者知人の床屋さんの訪問にて散髪や、嫁いだ娘夫婦面会時手作りのお弁当を本人と一緒に頂くなど馴染みの関係を受け入れています。		本人の関わる人間関係を尊重し、馴染みの付き合いを受け入れており、地域社会と交流を保つ支援をしています。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で毎日家事活動を共にし、協力や助け合う環境の中で会話が持てるような声掛けや雰囲気作りをしています。難聴や意思疎通が困難な入居者の間に職員は入り、会話を促し交流を図れるようにしています。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の在宅介護支援センターと連携し、退居後の在宅での情報を共有し、また施設の行事の案内や家族介護者教室の案内を継続し、町内で家族に会った場合は挨拶と近況を伺うなど付き合いを大切にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントツールを用い、やりたいこと・行きたい所など一人一人の生活に対する生きがいや希望を伺い意向の把握に努めています。また困難な場合は表情や仕草などから把握に努め、時には家族から助言を聞くこともあります。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族から生活歴や背景を聞き取り把握し、また他事業所からの情報を元に職員同士情報を交換し一人ひとりの把握に努めています。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとり、活動内容や心身の状態など健康と排泄チェックシートを用いての記録等、パソコン入力し情報共有しながら、一人ひとりの現状の把握に努めチーム全体で一人ひとりを総合的に把握し変化に早期に気付く様に努めています。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族面会時意見を伺い情報を得、全体の担当者会議において情報を共有し、一人ひとりに添った介護計画を作成しています。併設事業所の多職種による意見も反映されています。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画期間はもとより、健康状態・生活機能・認知症の状態が変化した場合は、家族や医療機関の主治医に相談をすると共に、看護面介護面のスタッフの意見を参考に計画作成担当者は計画の見直し、作成しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の個別記録をパソコン入力し、職員がいつでも閲覧できるようにし、情報共有しています。特記事項がある場合パソコンの日報に掲示しミーティングで連絡し、ケアの見直しに活かしています。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の希望により週末は家族と過ごす等の生活を支援するため、家族と食事の献立の情報を共有するなどして、その都度の柔軟に対応に努めています。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>毎年、町で開催している秋祭りや文化祭見物での場所や移送の車の駐車場の確保を、町や町内から協力を得ています。中学校のボランティアによる施設の受け入れや行事の際の協力をしながら支援を行っております。消防訓練には消防署の協力や地域婦人の協力を得ています。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の意向や必要性に応じて、家族に相談し、併設の在宅介護支援センターのケアマネージャと話し合うことや、インフォーマルサービス利用支援に努めています。福祉移送サービスの利用や併設デイサービスとのレクリエーションや行事参加を楽しむ機会があります。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>毎月1回の包括ケア会議に参加し、ケアマネジメントについて必要時は、社会福祉事務所や町役場福祉・保健の担当者と権利擁護相談などで協働の支援に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医を持ち、受診時や往診時には健康面の情報提供をしながら医療と連携し支援しています。また家族からも情報を聞きながら希望を大切にしています。		施設の協力医の定期通院、往診の協力体制が出来ています。
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状の変化によって専門医の診察や相談の可能な事を説明、治療を受けられるよう支援しています。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に施設の看護職員に健康相談をしながら、日常の健康管理を行っています。また、かかりつけの医療機関の看護師に健康状態について電話やFAXにて随時相談しています。訪問看護サービスを受けている方は看護師に2回/M来所時健康相談や情報交換をしています。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	看護師や職員は医療機関を訪問し、入院中の経過を適宜把握し連絡を密に取り早期退院や退院後の安心したケアができるよう情報を共有し連携を図っています。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人家族から意向を書面で確認し、情報を職員で共有しています。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	センター方式の様式を用い、一人ひとりの可能性を把握しチーム全体で自立支援に向けたケアを行っています。ターミナルケアやターミナルにおける精神的ケアに取り組むために、研修などでの準備検討しています。		医療連携体制を強め、安心と尊厳のターミナルケアに取り組んでいきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>関係者に、事前にこれまでの生活状況など本人に関わる情報を文書で提供し環境が変わることでのダメージが減るように防いでいます。</p>		<p>グループホームから特別養護老人ホーム、老人保健施設入所となった場合、事前に情報提供を文書で行っています。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入所者を尊重し、他者の前で羞恥心を与えないよう言葉かけや対応はさりげないケアに配慮しています。守秘義務を守る同意書を重要事項説明書で取り交わしています。広報誌への掲載は、書面で同意書をいただき意思確認をしています。</p>		<p>個人情報保護法についての研修会や、シュレッダーによる記録物の廃棄を実施しています。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>会話の中から一人ひとりの思いを見極め、自己決定できるような尋ね方やケアに納得できる生活になるよう支援しています。</p>		<p>献立のメニューや味付け、水分補給時の飲み物等入居者の意見を聞き自己決定や希望を引き出しています。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の体調や生活リズムに配慮しながら、一人ひとりの希望を優先に支援しています。</p>		<p>休養、外出、入浴、生活全体に於いて本人の希望を聞きながらその人の希望に添う暮らしを支援しています。入居時には、家族からも今までの生活について尋ね情報シートを用いて、個人を尊重したケアに努めています。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>季節や気候の移り変わり時期は、入居者と一緒に衣替えを行い、服を選んでいきます。本人の希望の美容院でのカットパーマ、髪染めなど美容院の予約や送迎の支援をしています。家族から意向を伺いカットなど床屋の利用を支援しています。</p>		<p>行事や外出時は、化粧やいつもと違う髪型のセットなどを職員も支援し、おしゃれのできるように努めています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立、調理は入居者と一緒に準備しており、一人ひとりの好みを聞き入れ献立に配慮しています。準備や片付けなどは得意な部分を見いだし発揮できる場面を工夫や支援しています。		毎食の準備、切る、煮る、味付け、盛り付け。後片付け、茶碗拭き、米とぎ等できることを職員と一緒に毎回行い、五感を刺激し、楽しい食事の支援に努めています。男性には、味見をお願いするなどして関わりの楽しみを支援をしています。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みを前もって把握しており、また、その日の気分、気候や体調も考慮し希望を聞きながら用意しています。		嗜好品は、栄養の偏りに注意し、本人の食の生きがいを尊重し支援していきます。
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄サイクルを記録し早めにトイレの声掛けを行っています。また仕草を察知しトイレでの自然な排泄ができるよう支援しています。		失禁の状態であってもトイレでの排泄を基本に支援をしています。
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	外出、面会、体調など本人の状況を把握し入居者に合わせて入浴を勧めています。洗身についても要望を聞きながら入浴を楽しめるように支援しています。		施設は天然温泉であり、効能など掲示し満足した入浴をサービス致しております。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は全個室の内側からも施錠可能等プライバシーが保たれ、本人の馴染みの寝具で睡眠できるよう支援しています。眠れない時は職員が傍で見守りし不安を和らげたり、暖かい飲み物で安らぐ工夫をしています。		睡眠を無理せず、眠れない時は食堂やソファー、畳の座敷でくつろいでいただいたり自然な睡眠を促しています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しグループホームの生活の中で役割を持って、得意分野を活かし生活が楽しめるよう支援しています。		生活歴や、環境の背景など昔の風習を思い出し懐かしい回想できる機会を取り入れ認知症の進行防止につなげています(小正月、節句、彼岸、お盆や正月の準備等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の小遣い程度を外出の際、買い物の場面で一人ひとりの能力に応じた自立支援を行っています。		
58 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、近隣のスーパーへ食材購入に出かけています。園芸時期は種まきから収穫時期まで天気の良い日は畑に出かけたり周辺の散歩など活動しています。また施設にテラスを設置しており昼食やおやつなど屋外で楽しむ機会もあります。		毎日、日用品・食材購入・入居者の社会資源活用時の外出支援を継続し社会と交流の支援に努めています。
59 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や紅葉ドライブ、施設見学、祭り見学、町内の催し物の外出など出かける機会をつくり家族にも参加のお誘いをしています。又、お盆の墓参りや家族面会時の外出等希望により家族と相談しながら外出支援を図っています。		
60 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が望む場合は、一人ひとりに合わせた出来ない部分の支援を行っています。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人などいつでも気軽に訪問出来るように声掛けしています。面会時、居室にてゆっくり居心地よく過ごせるようお茶など準備し過ぎて頂いております。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や内部研修にて身体拘束について正しく理解しており、生活の暮らしの場所であり、入居者の尊厳を第一に身体拘束のないケアを支援しています。生命の危険性がありやむを得ない時と理解しています。		身体拘束排除についてのマニュアルも整備しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りや二重扉の構造で鍵をかけない工夫に取り組んでいます。不意の進入者による危険を防止するため夕方は早めに戸締まりをし、インターホン対応としています。居室には鍵を掛ける必要はなくケアは出来ています。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、一人一人の様子が常に把握できるようスタッフは気付き位置で見守りし、夜間も見守りを十分行い安全に配慮しています。		24時間介護体勢(夜間は夜勤1名、宿直1名)にて安全に配慮しております。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、裁縫用具等、所定の場所に保管し必要時職員と一緒に見守りしながら使用できています。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを共有し、内部研修で直接ケアについて指導を受け知識を習得し事故防止に取り組んでいます。		ヒヤリハットと報道による事故事例などについても検討し、事故防止について取り組みをおこなっています。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えた手段を一覧にし、見える場所に掲示。常にイメージトレーニングを職員会議や内部研修にて定期的に学んでいます。緊急連絡網も掲示しています。		入居者の高齢化と健康状態の変化によって、家族、かかりつけ医と連携を密に支援しています。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルがあり、毎年、消防署や地域婦人の協力を得て避難訓練を実施しています。		毎日施設の点検を行い故障時の修理や、環境整備など安全面の点検を行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族と健康面の情報交換を行い、状態の変化に対し、本人に取って一番良い対処ができるよう随時話し合っています。		定期受診前後や体調の変化時、家族に相談、意向を伺いながらケアにつなげています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	24時間一人ひとりの表情、健康、生活の様子を把握し、また毎日午前、午後とバイタル測定と食事摂量、排泄チェックし記録しており、早期の異変の発見に努め対応を行っています。		職員は入居者の細かい変化を察知し、状態によって医療機関と連絡情報交換を行い連携しています。
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人、家族から薬の薬剤情報用紙の内容を把握し個々に綴り一人ひとりの薬の効果、副作用など職員理解しており、支援方法を確認しながら行っている。飲み忘れがないようチェック表を用いながらケアをしています。		副作用、用法や用量についてなど薬剤に関する本を整備してあります。
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄記録を行っており、自然な排便につながる食材の工夫や腸の働きに効果がある活動も生活に組み入れ支援しています。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせて声掛けし困難な方にはできる限り自力で行えるよう支援しています。		口腔機能の維持支援(義歯の手入れを本人と自立支援、嚥下機能の維持)にとりくんでいます。
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事、水分摂取量を記録、パソコン入力しカロリーや水分の確保できるようにしています。偏食にて栄養が偏りがちな入居者には本人と相談しながら栄養補給の支援しており一人ひとりの嗜好も考えながら対応しています。併設施設の栄養士、また管理栄養士にいつでも相談可能な状況があります。		総合的な管理を行い医療機関と情報交換しながら健康的な生活の継続支援につとめています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設独自の感染症マニュアルをもとに内部研修を行い、予防の対策を日々行っています。流行時期には情報をパソコンで閲覧し情報を把握し予防接種に努めています。		入居時には、感染症を診断書にて把握しています。インフルエンザの予防接種や胸部X線を把握し結核感染予防に努めています。毎日のケアの方法として感染症の予防に添ったケアを継続をしていきます。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器、具冷蔵庫などの洗浄、殺菌、消毒に努め、調理前は職員、入居者とも手指の洗浄を丁寧に行い、調理方法は食中毒発声しやすい食材は控え、調理は熱処理を行っています。食材は毎日買い物に行き新鮮な食材を準備しています。		食中毒予防の衛生管理をマニュアルで学び発症を防止しています。
(1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲は竹作りの門構えや木製の表札であり施設は木造家屋と暖かく親しみやすい建物となっています。玄関は季節の色とりどりの花が咲き、あたたかい環境を工夫しています。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は和風作りで、それぞれは独立した間取りとなっており、窓は和紙のブラインドが設置し陽射しによって自由に開閉できます。照明器具は場所によって光線に配慮した器具を取り付けています。共有空間においては季節に合わせ花や風習の装飾を飾り昔の習慣を取り入れ、居心地良く過ごせる工夫をしています		居間には、床の間があり掘りごたつや階段筆筒を置き、和風の空間づくりがされています。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下に椅子やソファを設置し、随時くつろげる場所となっています。テラス、中庭は椅子やテーブルを配置し屋外でくつろげる場所として利用できています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談し使い慣れた家具や生活用品を準備し、これまで生活してきた自宅との格差が生じないように配慮し本人らしく過ごせるよう支援しています。</p>		<p>使い慣れた食器、家族の写真、夫の位牌、仏壇の設置など自分の居場所としての支援につとめています。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>全館床暖房で居室ごとの温度コントロールが可能です。各居室には窓、エアコン、換気扇も設置されており随時、温度調節や空調に配慮しています。清掃時は窓の換気をし、おこなっています。</p>		<p>食堂の上には、天窗があり、廊下や居室の窓と同様に開閉し、換気を充分できるようにつくられています。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は段差のないバリアフリーとなっています。随所に手すりを設置し自立歩行の支援と車椅子対応の洗面所となっています。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの居室に自分の字で名前を書いた名札の掲示と、居室の入り口に本人の写真を表札として飾り自分の居室が解りやすく、間違わないように工夫しています。</p>		<p>できる能力を職員間は把握し、後方支援に努めています</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物は中庭を囲む回廊となり手すりをつたいながら自由に歩行移動できる造りとなっています又、畳の小上がりの座敷に掘り炬燵で入居者同士くつろいだり、テラスにて日光浴をしながらティータイムを過ごし、玄関、座敷には椅子やソファを設置し入居者が思い通りに過ごす事が出来ています。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの入居者を尊重した家庭の暮らしの場所として、建物全体、居室のプライバシー、健康管理、食生活、調理、買い物支援、家族との交流などの環境面に配慮しています。